

# 「2024年 北海道花紀行」

## 1. 出発

○ 令和6年(2024年)7月30日(火) 晴れ

羽田空港からエアドゥで旭川空港へ そして層雲峡ホテルへ

例年なら食料や衣類など大量に車に積み込んで出かけるのだが、車を手放し、飛行機で往復する今年の北海道の荷物は、日程も4日間と短いので、小型のキャリーバックと、いつも山で使っている使い慣れた小さなリュックサックだけだ。

羽田を12時15分発の飛行機だが、何しろ飛行機などと云う乗り物は、このところ全く利用したことが無いので、勝手が全くわからない。遅刻して乗れなかったら一大事と、十分すぎるほどの時間の余裕をもって、朝7時にリュックサックを背負い、キャリーバックを引いて家を出て、バスと電車を乗り継いで本厚木駅へ行き、厚木バスセンターに8時前に着いた。



早朝だというのに気温はすでに30℃に近く猛暑だ。9時10分発羽田行きバスを待った。バスは予約定員制だが、満車。朝のラッシュ時間のため、東名は渋滞気味で横浜インターから保土ヶ谷バイパスを通る予定だが、保土ヶ谷バイパスは渋滞確実のため、横浜インターで出ずに横浜青葉JCTまで走り、横浜北西線を大黒JCT経由羽田へと走った。さすがに毎日走っている空港連絡バスだけあって、渋滞の外し方を良く知っている。到着予定時刻に20分の遅れで、10時40分に羽田空港第2ターミナルで無事下車できた。

なにしろ勝手がわからないので、到着したらすぐにチェックインしてしまった。搭乗予定のAD0-083便は、第2ターミナルの西の端、55ゲートだったので、リュックを背負って、キャリーバックを引いて、55ゲートまで延々と歩いた。

チェックインしてわかったが、国内線出発ロビーには、売店はあるが、レストランが無かった。出発まで2時間以上もある。あわててチェックインせずに、レストランで昼食をとってくれば良かった。仕方ないので、売店でおにぎり2個とおいお茶を買って昼食をとった。これから北海道の花旅に出かけるには、侘しい昼食だ。



旭川空港行きAD0-083便は、満員の乗客を乗せて快晴猛暑の羽田空港を12時30分に離陸した。私の席はA13、窓側で下が良く見える。フライトは順調で、東北地方へさしかかると、梅雨の影響か、一面雲に覆われていて、地表の景色何も見えなかつたが、

北海道に入ると雲が切れ、下に函館が良く見えた。



函館が眼下に見える



14時30分 無事晴天の旭川空港に着陸した。到着ロビーのバジェットレンタカーブース前で少々待ったが、お迎えの車に乗って、バジェットレンタカー事務所へ。空港からかなり離れた、

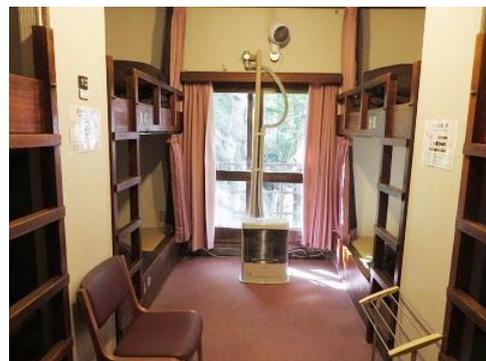


美瑛に近いところに事務所があった。レンタルされたのは、まだ走行距離数千 km の三菱の軽自動車、ek クロスワゴン（黒）。レンタル手続きを済ませ、さあ 出発だ！

少々時間を食って、事務所を出発したのが15:50。旭川市市街へ向かって北上し、途中コンビニ（ローソン）で今夜の夕飯と明日の朝食と昼食のお弁当、飲み物や副食類を購入し、準備万端、今夜の宿・層雲峡 Hostel へ向かった。天気が良く日差しが暑いので、エアコンをつけての走行。旭川北 IC から高速に乗り一路層雲峡へ。車は快調に走り、毎年お世話になっているお馴染みの宿、層雲峡の Hostel に、17:00 に無事到着した。



部屋は101室のベッドはFを指定された。今日は客が少なく、かなりすいているらしく、今夜は2段ベッド4個の8人部屋に私とあと一人の二人らしい。



荷物を入れて、早速風呂へ。ホテル朝陽館7階の新しくできたらしい展望露天風呂（800円）に初めて入った。層雲峡の岸壁がそそり立った絶景を見ながら、今日一日の疲れをのんびり癒した。

夕食は食堂の片隅で、今日ローソンで買って来た、生姜焼き弁当となめこ汁、サッポロクラシックビールがのどに沁みて旨い！ 食堂で特製カレーの夕食を食べているのは、普通の泊り客で3組しかおらず、みんな黙々と食事をし、会話も少なく静かでさびしい食堂だ。昔は登山客がいっぱいで、ビールを飲みながら、賑やかに山の話に花が咲いて、楽しい食事だったのが、嘘みたいに懐かしい。

今 8時。 がらんとした食堂の片隅で、日記を書いている。  
今日は予定通り無事終わることが出来た。

明日は赤岳へ登り、チシマツガザクラの花に会いにゆく。 天気はどうか？